

第2回農業分科会における主な意見について

計画上の位置付け	発言内容
目指す姿	現計画で掲げている「長期的な目標」をもう少し具体的に、農業者や農村地域が希望を持てるような、5年ずつ取組みを進め30年後にはこういう姿を目指すというような、中長期的な内容を含んだ計画とすることについて、もう一度考え直していただきたい。
施策	基本方針2「経営の確立を後押し、担い手を確保する」の施策2「担い手となる人材の確保・育成」について、主な取組みの「意欲ある担い手への支援」として、もう少し具体的に、例えば販売戦略や価格設定、SNS、ブランディングなど、経営知見のようなものがイメージできるものを記載した方がよいと思う。
施策	ため池や井堰、水路、農道等の農業用施設については、本計画とは別に整備計画を策定してほしい。
施策	ため池や井堰、水路・農道等の整備がどのぐらい進んだのかという指標を追加してほしい。
施策	基本方針4「農村地域を活性化する」の施策2「農への理解促進」について、「市民の理解を促進するとともに、農業や農村地域を応援したい人を増やし」とあるが、農業や農村地域を応援したい方々と農家とのマッチングに繋がるよう、行政において、応援したい人の中にどのような方がいるか把握に努めてほしい。
目標項目	目標項目については、施策の内容と突合できるような形で示してほしい。
目標項目	目標項目の「『ふくおかさん家のうまかもん』の市民認知度」について、認知度を向上させるにあたり、ネックとなっているのは若い世代なのか、中年層なのか、高齢者なのかによって、取組みも変わってくるため、市政アンケートにおける年代別の現状の認知度などの情報が分かれば、具体的な取組みのアイデアも出やすいと感じている。
個別の事業	ふくおかさん家のうまかもんについて、POSデータが収集できればいいのではないかな。
個別の事業	うまかもんの販売に積極的に取り組んでいる小売店については、市から積極的にうまかもん認定店としての認定を行い、認知度を高めていく必要があると思う。
個別の事業	パッケージに市内産と分かるようなシールを貼るなどして、市も積極的にうまかもんのPRに取り組んでいることを示していくことが必要ではないかな。
個別の事業	ふくおかさん家のうまかもんについて、市内産というだけではなく、例えば残留農薬が出ていないなど、+αの基準を設定した上でPRの方が効果的だと思う。
個別の事業	遊休農地の発生防止に向けて、耕作者がいない農地について、JAが一定の管理を行う場合の補助金制度を検討してほしい。
個別の事業	地域内で共同で利用している農業用施設や機械について、農業者の減少等により維持が困難となったものはJAが買い上げ、貸出を行うといった場合に利用できるように補助金制度を検討してほしい。
個別の事業	多くの補助制度は属地主義となっているが、市外で農業している市内在住者が福岡市の市場や直売所に出荷している場合については福岡市の補助制度を活用できるよう検討してほしい。

計画上の 位置付け	発言内容
その他	多様な販路を確保して、生産者の作物に合った販路選択に対する支援が検討できないか。
その他	計画の進捗状況を測っていく上で、現在、資料等で示しているデータ以外にも、様々なデータを示してほしい。
その他	農家が困っていることなどについて、もっと気軽に意見交換や相談できる場を設けてほしい。
その他	福岡市の状況を踏まえると、純粋な生産では大産地に勝てないため、売れそうな品目、伸びしろのある品目について、他の産地ではやっていないようなことを考えて稼いでいくべきだと思う。
その他	新規就農者について、農業収入が少ない時期に、草刈のような新規就農者でもできるような仕事をあっせんして、年中一定の収入がある状態にすると、新規就農者の定着につながっていくのではと考えている。
その他	計画の中で記載されている施策や取組みは立派なものだと思うが、現場の農業者まではなかなか浸透していないのが現状であり、ＪＡの更なる協力が必要だと思う。
その他	引き続き、都市農業の認識を持ちながら、検討を進めていくことが重要。
その他	ＡＩの急激な進化により、現場仕事への回帰が始まっており、農業は仕事がなくなった人たちの受け皿になってくる。特に都市農業は多面的機能を発揮できるため、様々な関わり方やビジネスが生み出せることが想定され、行政がその多様性を受容できる姿勢が重要だと思う。